

# 下関西高等学校 進路だより

令和5年3月 進路指導部

## ～国公立後期試験終了！受験生は本当にお疲れ様でした！！～

国公立大学前期試験の合格発表が10日で終わり、12日を中心に後期試験が実施されました。前期試験で合格できなかった受験生にとってはモチベーションを維持していくことを含め、厳しい状況となっていますが、その試練を乗り越えることは大きな成長に繋がる経験です。後期試験の試験科目は小論文や面接を課す大学が多く、総合的な学力が試されていると言えます。これまでの努力を結集させて最後まで粘り強く取り組んでくれたと思います。

では、今回は1月と2月にそれぞれ実施された共通テストと国立10難関大学の前期日程の出題内容について予備校が発表した分析を踏まえて報告したいと思います。

### 1 大学入学共通テストについて

共通テストの出題内容についてですが、**全体的に問題の分量や扱う資料の数が多く、そこから正確に情報を読み取る学力や、資料の内容をそれまでに学習してきた内容と関連付けて考え解答を導出する問題がより多くなりました。**知識の活用力を問う共通テストの問題作成方針が3年目にして定着してきたといえるでしょう。英語のリーディングでは引き続き短時間で多くの情報を読み取る速読力が要求されていました。リスニングでも、英文の読み上げが1回しかない設問、アメリカ英語以外が使われる設問、表やグラフなどを読み込んで素早く正答を導き出す設問など、高い情報処理能力が求められていました。数学ではI・A、II・Bの平均点がともに約20点アップするなど易化しました。これは大問の前半で取り組みやすい問題が設定されたことが要因とされていますが、全体の分量は多く、高得点を狙うには決して易しい問題とはいえなかったようです。バスケットボールの軌道と放物線など日常生活と関連の深い題材が出題されていました。国語は複数の文章・資料を組み合わせた出題が今年も継続していました。第1問は同一のテーマ・引用文に関する複数の文章をもとに出題されたほか、授業の会話場面や生徒の学習活動を想定した出題も見られました。複数の文章・資料を見比べる手間もあり、時間に追われた生徒も多かったのではないのでしょうか。正確な読解や基礎となる知識事項の習得はもちろん重要ですが、共通テストに向けては複数の文章や資料の情報を結びつけて考察するトレーニングをしておく必要があります。理科では2年ぶりの得点調整が実施されましたが、これは生物が難化し、物理との平均点の差が20点を超えたため、理科全体の出題傾向は昨年同様、実験結果などから論理的に考える力や本質的な理解を問う出題が多かったようです。地理・歴史では、提示された資料数が増加しており、資料読解力を求める傾向が強まりました。公民では、子どもの貧困、親ガチャなど社会で話題となっているものが題材とされました。以上から全ての教科に共通することは、**短時間で多くの資料から適切に情報を読み取り、解答に必要な情報に正しくアクセスし、他の資料や教科書の学習内容と結びつけて考察する力が必要で、「読解力を養成する」「知識を深く理解して応用する」「未知の設定でも知識を正しく活用して論理的に考察する」という学びの姿勢を保持することが重要だ**と思います。当然、読解力の養成に注視して、基礎知識の習得がおろそかになってはいけませんし、依然として基礎知識の正確な理解がなければ解けない問題は多くありました。知識の正確な理解と定着は変わらず重要で、何より個別試験では共通テスト以上に基礎知識が必要となってきます。この厳しい入試に立ち向かう為には**今まで以上に授業で集中し、学んだことを自学自習でしっかり確認する地道な学習習慣が必要だ**と思います。

### 2 難関大学個別入試の総論(駿台、河合塾、代ゼミの分析を要約+コメント、一部科目について省略)

#### <東京大学>

英語は例年、「読解力」「英作文」「リスニング」を満遍なく測定しようとする意図が見られ、大問が5題で構成されています。今年も要求されている学力や形式面での変化はなく、例年と同じく、

(次ページへつづく)

各問いの出題意図を素早く把握し、的確に処理する能力が必要とされました。難易度は昨年並みと分析されています。文科の数学は例年と同じく4題構成で今年は易化した模様です。必出の微分積分は今年も第2問で出題されています。理科は6題構成でこちらの難易度は昨年並みと分析されています。国語は文科が出題数は現代文2題、古文1題、漢文1題、理科が現代文1題、古文1題、漢文1題となっています。難易度は易化と分析され、本文の分量が増加しましたが、漢文は政治論に関する文章が3年連続で出題されました。理科は物理・化学・生物がいずれも難化したようです。物理は3題とも難易度が高く、分量も多く厳しい試験となりました。化学は一時期、基本的な問題が多く出題されていたみたいですが、今年は第1問、第3問の前半が難化と分析されています。生物はグラフ作図問題と計算問題が今年出題され、全体的に解答しにくい設問が多かったようです。日本史の難易度は昨年並みと分析され、分量、論述数ともに昨年と同程度でした。世界史の大問は3題で大論述1問、小論述5問、短答問題が12問で難易度は昨年並みと分析、分量は減少しました。私の担当科目の地理も大問3題で地理的思考力を問う問題が大半でした。分量は資料数が半減したことにより大きく減少しました。第1問は地球環境、第2問は水産業とあまり取り扱われていない問いが多かったですが難易度は例年並みだと思いました。

### <京都大学>

英語は大問4題でⅠⅡがともに下線部和訳3問、Ⅲが英文和訳で分量は昨年度より減少し、Ⅳが条件英作文で会話文中にふさわしい英文を書く自由英作文でした。難易度は昨年並みと分析され、分量は増加しました。数学は文系、理系ともに易化したようで、誘導がない問題が多い点は今年も同じでした。文系は国語は現代文2題、古文1題でしたが、大問2の随想は**森田真生氏「数学する身体」**が問題文に取り上げられ、京都大学の数学者、岡潔についての文章でした。森田氏は東大に文系入試で入学した人ですが、入学後にフォーブス日本版の日本の起業家ランキング2020で1位となった鈴木健氏と出会い数学や物理に興味を持ち始め、3年の進振りでは理系を選び、工学部知能社会システムコースに進みエンジニアリングの研究を始めます。その後、理学部数学科に学士入学し、2010年に卒業した後は福岡県糸島市に数学道場を設立。2012年からは京都を拠点として、数学をテーマとした著作や講演活動を行っている独立研究者です。ちなみに「数学する身体」は小林秀雄賞を受賞していますが、別の著書**「計算する生命」**では先月紹介した**鷺田清一**先生や前京都大学総長でゴリラの研究で有名な**山極寿一**先生が選考委員をされている、**河合隼雄**学芸賞を受賞しています。河合隼雄先生も京都大学で臨床心理学を研究していたことから、この出典には大きな意味があると推測できますね。森田氏の文章は読解力を身につけ、感性を磨くのに適したものが多く、ネットなどにも掲載されているので、春季休業中に調べて読んでみてください。次に物理ですが、難易度は昨年並みと分析されていますが、化学と生物はともに難易度がやや易化と分析され、分量は減少しています。日本史の難易度は昨年並みと分析されていますが、世界史は易化したようです。地理は第1問氷河地形と第2問南アメリカの地誌、第4問民族問題は記述問題、論述問題ともに標準レベルでしたが、第3問は第3次産業で生徒に馴染みが薄く、特にインドの消費者行動の変化についての50字論述は設問の意味が理解しにくかったと思います。

### <九州大学>

英語は大問5題で読解問題が120点、英作文が80点の配点でした。読解問題の総語数は約1500語で、昨年より200語減少しました。読解問題は下線部内容説明問題を中心に、下線部和訳問題、真偽型内容一致問題、タイトル選択問題などが出題されました。英作文では今年度も条件英作文が2題出題されましたが難易度は昨年並みと分析されています。数学は京大と同じく文系、理系ともに難化と分析されていますが、九大は昨年度も難化したので生徒は大変だったと思われます。理系では昨年度初めて出題された「資料を読んで答える問題」が今年も出題されました。国語は文学部では今年も現代文1題、古文2題、漢文1題構成で難化と分析されています。問題文は2700字程度で昨年より200字程度減少しました。評論は倫理にも登場する**加藤周一**氏の「加藤周一セレクション」からの出題でした。古文2題は難易度が易化と分析され、分量は昨年並みでした。漢文の難易度は昨年並みと分析されていますが、分量は増え、今年も文化史が出題されました。法・

(次ページへつづく)

経済・教育学部の国語は現代文が2題で古文1題、漢文1題の構成でした。現代文の2題目の問題文は**村上陽一郎**氏の「エリートと教養」でした。村上陽一郎氏は東京大学名誉教授で現在86歳の科学哲学者です。この本は「**エリート**」「**教養**」という言葉が最近、揶揄されることが多いことに対して、敢えてエリートのための教養を正面から論ぜよという編集者の命題に応えたものです。村上氏は「**エリート**」という言葉はラテン語の *eligo* の派生語に由来し、意味は「選ばれたもの」と述べています。そして、「特別に神に選ばれたもの」、それが「**エリート**」のヨーロッパ的理解で、人間がある才能を有するとは、神から特別に「贈り物」を頂戴したことに他ならない。それゆえ普通の人よりも、より多くの、より大きな義務と責任を負った人間なので、人々のために自分の命さえ差し出す覚悟をもって奉仕しようとする人々であるという内容でした。一方、**教養**とは**欲望の発揮を抑える「慎み」**であり、**人間が静穏に生きていくためにわきまえておくべき行動習慣を守り、これに従って行動する人々を理解するだけの自由度を持ち続けるべきだ**と村上氏は著書の中で主張しています。今回、1年生の進路だよりのタイトルを「**Noblesse oblige**」としましたが、村上氏の言葉を借りれば、人間がある才能を有するということは、神から特別に「贈り物」を頂戴したことになり、結果として、その人はその才能において、他人より抜きん出ることになる。そして、神はその才能を自分と人々のために使うことを期待して、その人に才能を贈ったのですから、贈られた側は、それだけの義務と責任が生じることになり、それは **Noblesse oblige** と同義であると言えます。このフランス語は、「高貴なる者の義務」のように、熟語として解されることが多いのですが、本来は「高貴なる者には、それなりの義務を課される」という一つの文章で、**エリート**とは普通の人々よりもより多くの、より大きな義務と責任を負った人間であり、1年生にはそんな**エリート**を目指すことを期待してこのタイトルを贈りました。さて、この1年間で君たちはどのような成長を遂げたでしょう。話がまた反れてましたが、次に物理は例年通り大問が3題であり、出題分野は「力学」「電磁気」「熱力学・波動」でした。ここ数年は波動、熱力学が交互に出題されていましたが、今年は両方からの出題となりました。難易度は難化と分析されています。化学は大問5題の出題で、難易度は昨年並みと分析されています。生物の大問数は例年通り5題でしたが、過去2年は難易度が高く厳しかったようですが、今年は易化と分析されています。日本史は古代から近現代までの大問4題。内容は政治・外交・文化・経済と幅広く難易度は昨年並みと分析されています。世界史は[1]の論述問題の指定字数が600字から500字に減少しましたが、全体としては易化と分析されています。地理は例年、系統から1題、地誌から1題出題されていますが、今年は「工業と企業活動」「ラテンアメリカの農業と社会」がテーマでした。いずれも標準レベルで難問はありませんが、論述問題がほとんどなので日ごろから文章を書くことに慣れておく必要があります。

### <大阪大学>

外国語学部の英語は英文和訳、読解総合、自由英作文、和文英訳、リスニングの5題構成、外国語学部以外は第I問の和文英訳、第III問の自由英作文は外国語学部と共通問題、第II問読解総合と第IV問の和文英訳は独自問題となっています。難易度は外国語学部、外国語学部以外ともに易化と分析されています。数学は文系、理系ともに難化と分析されていますが、例年のレベルに戻ったようです。文系は3題、理系は5題構成で文系の大問3と理系の大問2の平面ベクトルが文理共通問題でした。国語は文学部が現代文2題、古文1題、漢文1題の4題、人間科学部、外国語学部、法学部、経済学部が現代文2題、古文1題の4題構成です。文学部は難化と分析されています。物理は例年通り大問3題が出題され、分野は[1]力学[2]電気[3]熱、波でした。難易度は難化と分析されています。化学の難易度は昨年並みと分析されていますが、今年は過去問対策をしっかりした受験生が有利であったようです。生物は昨年度に比べると易化と分析されています。日本史は昨年と同じ、200字程度の論述問題が4題出題されました。(I)原始・古代(II)中世(III)近世(IV)近現代という形式が定着しています。世界史は2019年度以降、外国語と文学部は全ての問題が共通となりましたが、今年は(I)で異なる問題が出題され、外国語学部が外交書簡から見たイル＝ハン国の君主とフランス王との関係、文学部が5世紀と8世紀のヨーロッパに関する2つの資料を使った問題でした。地理は例年150字~200字程度の論述問題ですが、

(次ページへつづく)

今年は何文字が 50 字、100 字、250 字と多様でした。(I) 問 3 のサハラ砂漠以南における紛争鉱物を 2 例あげて、それを規制することが困難な理由を 120 字程度で説明する問題は超難問で受験生のほとんどはできていないと思います。

### <神戸大学>

英語は読解型 3 題、英作文 1 題の出題で、難易度は昨年並みと分析されています。数学文系は大問 3 題で難易度は昨年並みと分析されています。理系は大問 5 題でしたが、今年は数学Ⅲが 1 題だけの出題で、昨年の 4 題から大きく減少しました。難易度は昨年並みと分析されています。国語は海洋政策が現代文 1 題、経営が現代文 1 題、古文 1 題で他の学部が現代文 1 題、古文 1 題、漢文 1 題の構成です。現代文は過去 2 年、哲学者の書籍からの出典でしたが、今年は社会学者でした。現代文は難度が高いという定評があるので十分な対策が必要です。古文は分量が増え、漢文は逆に分量が減りましたが、難易度はともに昨年並みと分析されています。理科の物理は 3 題で難易度は易化、化学は 4 題で難化、生物は 4 題で昨年並みと分析されています。

### <東京工業大学>

英語の難易度はやや難化と分析されています。長文 2 題の総語数は 5 年連続で 3000 語を超えており、分量的な負担は大きいです。数学は 180 分 5 題構成で、例年通り一筋縄ではいかない問題が多く出題されたようです。理科は物理 120 分、化学 120 分の合計 4 時間の長丁場の試験となっています。物理は大問 3 題で原子からの出題がトピックとして挙げられていました。化学は昨年同様、取り組みやすい問題が多く出題されていたようです。

### <一橋大学>

英語、国語とも形式、難易度ともに変化はなく、数学は 5 題構成でしたが難易度は易化と分析されています。地歴も大きな変化はなかったようですが、地理は東大が自然環境、日本を中心に出题されているのに対し、経済のグローバル化が途上国にどのような影響を与えるかという視点で都市、産業を中心に問作されているのが特徴ですが、今年もこれを踏襲した出題でした。

### <北海道大学>

英語は例年通り、英文読解問題が 2 題、英作文問題が 1 題、会話文要約問題が 1 題の大問 4 題の構成でしたが、難易度は易化と分析されています。数学は文系が大問 4 題構成ですが、難易度は昨年度よりは難化したと分析されています。理系は 5 題構成ですが難易度は難化したと分析されています。例年出題されていた積分が出題されず、4 年ぶりに空間ベクトルが出題されたなど傾向も変わるなど厳しい試験となったようです。国語は現代文 2 題、古文 1 題、漢文 1 題の 4 題構成で難易度は昨年並みと分析されています。評論のうち 1 題は九大と同じく加藤周一氏からの出典となりました。理科は物理が難化し分量も増えたようですが、化学と生物は逆に易化し分量も減少したようです。

### <東北大学>

英語の出題構成は変化がありませんでしたが、難易度は難化と分析されています。数学は文系が 4 題、理系が 6 題構成でしたが、理系は易化傾向が続いていますが、今年もさらに易化したと分析されています。難問ぞろいの年もあるので頭に入れておいてください。国語は現代文 2 題、古文 1 題、漢文 1 題で特に変化はなく、全体的に標準レベルの設問が多かったようです。理科も物理と生物の分量は増えていますが、変化は小さく落ち着いた入試となったようです。

### <名古屋大学>

英語についての変化は特にはなかったようです。数学は文系 3 題、理系 4 題の構成でしたが、文理ともに難化と分析されています。国語は現代文 1 題、古文 1 題、漢文 1 題ですが、現代文の難易度は難化と分析されています。理科は物理、化学が易化、生物は昨年度並みですが資料の読解に時間を要し、時間的に厳しいと分析されています。

以上です。紙面の都合でなかなか上手く伝えられていない部分がたくさんありますが、参考になれば幸いです。また、この時期に青本や赤本を活用して、過去問研究にも取り組んでみてください。

(文責・松村)